

## 科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 22 年 2 月 18 日 ( 木 ) 11:00 ~ 12:10

場 所 合同庁舎 4 号館 742 会議室

出席者 川端科学技術政策担当大臣、津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、中鉢議員、金澤議員、藤田統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官

### 議事概要

#### 議題 1 . 科学・技術政策上の当面の重要課題（骨子）について

<相澤議員説明>

(相澤議員) 本案で承認いただいたこととする。

#### 議題 2 . 科学・技術重要施策アクション・プランの策定（グリーン・イノベーション及びライフ・イノベーションの主要推進項目）について

<相澤議員説明>

(本庶議員) 別紙 2 のライフ・イノベーションのところで、「国内食料自給率の向上等に資するバイオテクノロジー」が、理由なく「当該項目の対象としない」と書かれているが、「グリーン・イノベーションに含まれるので」という言葉を入れた方がよいのではないか。

(相澤議員) 当面の重要課題に記載されているとおり、グリーン・イノベーションの範疇であることは明確なので、誤解を招かないよう、ただし書は省略したい。

(奥村議員) グリーン・イノベーション、ライフ・イノベーションともに、「イメージ例を選定した」と書かれているが、例と言いつつ「選定した」というのは矛盾のある表現ではないか。イメージ例を「記す」「挙げる」のような判断基準の入らない言葉にすべきである。

(中鉢議員) 成長戦略の目標を実現するための科学・技術の役割を、必要なものは全て挙げて整理するべきではないか。

(相澤議員) アクション・プランは、来年度の概算要求へのガイドラインになるものなので、成長戦略の全てをカバーするのではなく、太めの柱になるような主要推進項目を設定して、その中でどれを重点的に進めるかの議論を行うべき。

(川端大臣) アクション・プランは、成長戦略の中に完全にビルトインされているのではなく、成長戦略を見ながら作成するもの。したがって、成長戦略の全体をカバーするという位置づけではない。

### 議題3. 科技外交戦略タスクフォース報告書について

<橋本企画官説明>

(川端大臣) 「科学技術外交戦略」という単語には「・」がなく、それ以外はほとんど「科学・技術」となっている。考え方を整理する必要があるのではないか。

(津村政務官) 今後の展開がちょっとさみしい感じがする。本会議で報告するだけで、政府を挙げて実施する体制が確保されるとは思えず、言ってみただけということになりかねない。P D C Aで言うと、CとAがここに見えていない。

例えば、総合科学技術会議の本会議に外務省からの出席を求める、何かを担つてもらうということもありうる。

(金澤議員) 「科学技術外交」は、総合科学技術会議から出発した話であり、大変重要な産物である。学術会議でもそのことを高く評価しており、月1回発行している『学術の動向』の中でも特集している。

(中鉢議員) 具体的なイメージをもって提案するのと、これをやってくださいというのとでは迫力が違ってくる。また、これは官民一緒になって取り組むべき話であり、官を補完する存在として民があるというものではない。

### 議題4. 大学院進学時における高等教育機関間の学生移動

<文部科学省科学技術政策研究所説明>

(白石議員) 定員充足率が減少傾向にあるという説明があった。これは悪いことだと受け止められがちだが、実はそうではなく、学生の質の問題を考えて学生を探ろうとすると、定員充足率は低くなつて当然である。むしろ、いいかげんに探ると定員充足率は高くなるので、ここの解釈は非常に難しい。

(津村政務官) この調査のインプリケーションは何か。明確な問題意識がないままに調査をしているのではないか。

(政策研究所) 日本の大学は、学部から直接上に上がっていき、他の大学へ移ることは極めて少なく、それを増やしたほうがいいという方針がある。それが実際どうなつていて、それがいい効果をもたらしているのかどうかを調査したもの。

(金澤議員) これは12大学という、ある意味では上位にある大学の調査だが、同時に中位以下の大学の結果と比較して全体を見なければ、大学院進学というものの本当の意味づけは難しい。

(奥村議員) 文部科学省は、大学院生のレベルを国際的に通用するところまで上げようという施策を打ちだしているが、それであれば、もう少しグローバルな比較をしたうえで、どうすべきかという答えを出していただきたい。

(津村政務官) 対外発表の経験は、大学間の移動があつた場合の方が少なく、移動することはハンディキャップだというふうにも読み取れるが、一方で移動する比率を上げるべきというのはどういうことか。ハンディキャップにならないということであれば、それを根拠も含めて示していただきたい。

(相澤議員) 科学技術政策研究所の調査研究は、政策に対してどう反映させるかという視点を明確にして調査にあたり、解析をするべきではないか。

(政策研究所) 一つ一つのレポートは、あるデータを報告するということなので、政策に直接つながらないケースもあるが、全体の中で御指摘に十分お答えできるようにしたい。

### **議題5.その他**

<奥村議員から科学・技術リテラシー向上策について説明>

(金澤議員) 学者、研究者による情報発信は、学術会議でも取り組んでいるところであり、協力して進めていきたい。また、東大の教養学部では、サイエンスコミュニケーターの育成を行っている。

(津村政務官) 事務方にも科学・技術リテラシー向上策の取りまとめをお願いしているので、この案も踏まえて検討してほしい。サイエンスコミュニケーターと意見交換する機会も作りたい。

(以上)